



ようこそ！ 市長室へ

30

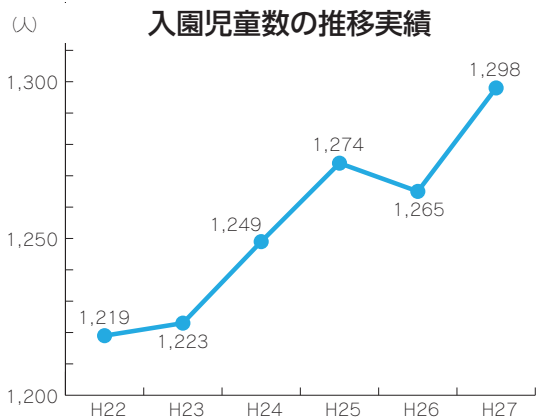


高まる保育ニーズへの対応

「マイナス10カ月から つなぐ
 まなぶ かかわる 子育て」
 お母さんのお腹に大切な生命が
 宿ったとき（マイナス10カ月）か
 ら、可児市の子育て支援が始まり
 ます。

家庭や地域はもちろん、我が国
 の将来を左右するほど少子化が深
 刻化している中で、子育て支援
 は可児市にとっても最重要政策で
 す。その中で、10年程前から3歳
 未満児（以下未満児）の保育ニ
 ーズが高まりはじめ、その希望にど
 う応えていくかが課題となってい
 ました。

保育園入園の待機児童が全国的
 にも課題となる中、可児市でもい
 よいよ対応しきれなくなってきた
 ため、今年度の保育園入園者数は



過去最高の1,298人となり、
 特に未満児を中心に途中入園の申
 し込みが急増してきたことが大き
 な要因です。平成25年度に、子育
 て世帯へのニーズ調査を基にして



梶の木保育園の様子

将来の入園予測を行っています。
 しかしながら、1、2歳児は平成
 31年度の入園者予測数を、現時点
 で既に超えてしまう状況となりま
 した。

急増する未満児保育ニーズに
 対応するため、計画を前倒しし
 て、民間の小規模保育所（未満児
 対象）の開所などを急ぐことに
 しました。10月に川合地内で「梶
 の木保育園」が新たに開園しまし
 た。さらに2園ほど、平成28年度
 の開園に向けて準備を進めていま
 す。また、坂戸にある公共用地を民
 間に無償貸与することで、80人
 程度の認可保育所を整
 備すべく、平成29年4月の開所に

向け、急ピッチで事業を進めてい
 るところです。併せて、私立幼稚
 園の認定こども園（0歳から受け
 入れ可）への移行について働きか
 けをしたり、幼稚園でも延長保育
 など預かりサービスが充実してい
 ることを積極的にPRしていきま
 す。

現在、未満児の通園率はおおよ
 ね0歳児7%、1歳児21%、2歳
 児27%となっており、増加する可
 能性があります。また、共働き夫
 婦の増加、女性の労働意欲の高ま
 り、企業活動の活発化と労働力不
 足なども相まって、保育ニーズは
 高水準で推移すると思われる。
 その受け皿づくりへの的確な対応
 が必要です。

一方で、親子が一緒に過ごす時
 間は何事にも代えがたく、未満児
 には一層重要な時間です。親子の
 コミュニケーションが、その子の
 社会力を育て、高める大切な第一
 歩です。授かった幼い生命が、精
 一杯成長してくれるよう、大切に
 育んでいくことが、私たちの最大
 の使命ではないでしょうか。

可児市長 川合 成伸